

「ゆずり葉」製作ニュース

【第18号 2008年12月19日 全日本ろうあ連盟創立60周年記念映画製作委員会事務局】

団体募金・寄付して下さった団体、学校等を紹介します(12月17日現在)

12月11日～12月17日までの間に入金のあった加盟団体
社団法人 高知県聴覚障害者協会

12月11日～12月17日までの間に、
地域加盟団体を通して入金して下さいました団体

(地域ろう協関係)

比企聴覚障害者の会(埼玉)

大分県臼杵地区聴覚障害者協会(大分)

大分県津久見地区聴覚障害者協会(大分)

(サークル関係等)

全国手話通訳問題研究会徳島支部(徳島)

大分市手話サークル「はぐるま」夜の部(大分)

中津市手話サークル「さつき昼」(大分)

野津手話サークル「吉四六」(大分)

12月11日～12月15日に製作委員会
に直接寄付して下さいました団体

(地域ろう協関係)

福岡市聴力障害者福祉協会

中央区分会(福岡)

蒲都市聴覚障害者福祉会(愛知)

(サークル関係等)

右京区手話サークル連絡会(京都)

手話サークルあすなろ'82(京都)

手話サークルさくらんぼ(京都)

山本おさむ氏(漫画家)

～『ゆずり葉』にける想～

私は現在ろうあ連盟の60周年記念映画『ゆずり葉』の製作のお手伝いをしている。これはろうあ運動の精神を次の世代へ引き継いでいって欲しいという祈念の作品である。製作委員長はろうあ連盟の安藤氏、事務局局長は私と同世代の久松氏、そして脚本、監督は30代の早瀬憲太郎氏が務めている。

「ろうあ運動の精神の継承」などと言うのは映画作品のテーマとしては極めて難しいテーマで、私もシナリオ作りのお手伝いとして早瀬氏と二人、おおいに汗を流した。戦後間もなく、それまでの学校長や各界有力者の善導を仰ぐという組織のあり方から脱し自主組織としてろうあ連盟を立ち上げ基盤を築いた藤本氏、大家氏の世代、そして情緒的な障害者観を排し「権利主体としてのろうあ者」を主張した高田氏、安藤氏の世代。この世代は手話通訳制度、情報提供施設、ろう重複障害者施設の創出、差別法規撤廃、日本語手話辞典の出版と大きな仕事を成し遂げた。

シナリオ作りでは旧世代、新世代のろうあ問題をいくつか取り上げ、二人で検討しながら登場人物の心を探って行った。時に私は目頭が熱くなり、「まずいな」と思って早瀬氏を見ると彼の目も赤くなっていた。撮影では新旧世代のろう者が出演して互いにしのぎを削る熱演を繰りひろげていた。その様子を見て私は、この映画の製作自体が「ろうあ運動の精神の継承」を体現しているのではないかと思った。これからの上映運動を通して、その「継承」が全国に広がる事を期待して、本稿連載の終りとしたい。

【日本手話通訳士協会「翼(つばさ)」No.203より一部抜粋転載】

～「ゆずり葉」映画応援イベント関連のお知らせ～

映画出演者が参加するイベント

2009年2月22日

(社)新潟県聴覚障害者協会

「第19回『耳の日』記念の集い」

庄崎隆志氏出演(予定)

2009年2月28日

(社)東京都聴覚障害者連盟

「第38回『耳の日』記念文化祭」

庄崎隆志氏出演(予定)

お問い合わせは、各協会へ

<CS放送>

1月1日放送の「目で聴くテレビ 2009年新年番組」で、映画「ゆずり葉」出演者新春対談が予定されています。

放送時間については、日聴紙1月号をご覧ください。

【お詫び】 来週と再来週の製作ニュースは、都合によりお休みとさせていただきます。次回発行は、平成21年1月9日の予定です。